

議 事 録 （ 概 要 ）

件 名	第 7 回米子駅周辺活性化連携会議		
日 時	令和 7 年 1 0 月 1 7 日（金） 午前 1 0 時～午前 1 1 時 3 0 分	場 所	米子市役所本庁舎 4 階 4 0 1 会議室
出席者	別紙 出席者名簿のとおり		

（協 議 概 要）

【報告事項】

(1) 米子駅周辺の取組について（米子市から報告）

- ①米子駅北広場の整備状況、今後の予定（資料 1）
- ②だんだん広場の利用状況（資料 2）
- ③公共交通ふれあいフェスタ、バス運賃無料 DAY、だんだんバス魅力発信サイト（資料 3）
・質疑、意見なし。

【議事】

(1) 米子駅周辺のまちづくり将来イメージについて

米子駅周辺まちづくり基本構想について（米子市から報告：資料 4）

- ・インフラ整備をする際にもイメージや構想はあったが、実際に整備ができて様々な人流や賑わいが生まれた。これをどう持続可能性や拡大可能性があるものにしていくのか、市民の皆さんや地域の事業者の方々の生の声をできるだけ拾い、必要に応じて有識者や専門家の意見も伺いながら、一緒になって米子駅周辺の将来イメージを作りたい。そしてこの連携会議で確認しながら、一定のオーソライズをいただきたいと考えている。やり方も含めてご意見があれば頂戴したい。（市：伊澤副市長）
- ・市民のためのまちづくりを進めていくということなので、市民に広く周知して理解していただくということと、その意見をまちづくりに反映していくことは非常に重要だと思う。市民や関係者の皆様と一緒に将来イメージを描くことについては賛同する。良い方向で進められていると思う。連携会議の中で確認をするということについても異論はない。有識者をオブザーバーに加えてご意見を伺うことについても賛同する。連携会議に加わっていただくとなると参加人数を絞り込まないといけなくなるので、必ずしも連携会議の中に入っていくかどうかではなく、多方面の専門家や学識経験者にご意見やご助言いただくのも良いと思う。将来イメージを描いていくということで市民の皆さんの期待も高いと思うし、県としてはまちづくり、道路管理、道路ネットワークの視点が中心になるが積極的に協力したい。（県：荒田西部総合事務所長）
- ・異論はない。民間の皆さんからご意見をいただいたり、ご理解を得ることが非常に大事だと思う。有識者もぜひ入って議論していただきたい。まちづくりは持続性と連続性の両方必要だと考えており、現在の課題も含めて議論できればと思う。会議の仕方については、色々なレベル感で議論をしていく必要があると思うので、団体、民間事業者、有識者は分けて考えた方が現実性のある議論になると思う。（J R：和田副支社長）
- ・将来イメージについては、米子商工会議所も以前から提案をしていた。歩いて楽しいまちづく

りがどういうものか市民の皆さんに示すことが、市民の理解を得るのに大事だと考えている。公共交通は本当に大事だと思うが、米子の中心市街地エリアに来られる方は公共交通だけではない。周辺から多くの人が自動車に来てにぎわいが作られているということもあり、自動車交通についても考えながら歩いて楽しいまちづくりを考えていく必要がある。将来イメージは都市計画マスタープランの変更とも関連付けて考えていただきたい。(商工会議所：森田専務理事)

- ・将来イメージの作成に向けて概ね了承をいただいたと捉えている。できるだけ実効性の高い検討・議論を進めていくため、連携会議にも相談をしながら協議の仕方を検討し対応したい。公共交通だけではなく自動車交通にも配慮した検討が必要ではないかというご意見については、まさにその通りであると認識をしている。今回の将来イメージの作成でも、回遊ネットワークをどうしていくのかという視点を加えている。公共交通だけではなく市外から自動車で来られた方にどう回っていただくか、それに紐づく将来の道路ネットワークはどうあるべきなのか、こういった視点を加えながら検討を進めたい。都市計画マスタープランの変更なども必要に応じて見直しなどを図りたい。(佐々木総合政策部長)
- ・将来イメージの議論については異論ないという確認ができた。いただいたご指摘を踏まえながら連携会議が中心になって整理をしていく形で取組を進めたい。(市：伊澤副市長)

(2) 米子駅を中心とした各エリアの活性化に向けた取組について

①米子駅南側エリア（米子市から報告：資料5）

- ・米子アリーナは山陰では最大規模のアリーナ施設になる。メインアリーナは4,000人規模で、サブアリーナや武道館機能を併設することでスポーツだけではなく様々な大規模コンベンション機能を備えることになる。共同事業者である県と、地域の様々な民間事業者の皆様を中心に新しいコンベンション機能をしっかり使っていくような体制を作る段取りをしたいと考えているところである。米子駅南口からの距離は1.5km程度で、都市部で生活をされている方は普通に歩ける距離であり、まちを楽しみながら歩いていただける距離である。東山公園駅は、バリアフリー改良により利便性を高めたいと考えている。元々公共交通でアクセスしやすい特性があるので、大規模集客時にも最大限の機能発揮に繋がるような利活用をすることによって、人の流れを作りたいと考えている。引き続き、駅南口ができたことによる効果を想定しつつ、しっかりとした取組を皆様と一緒に進めていきたい。(市：伊澤副市長)

➡東山公園駅は昔建設された駅で高いところに線路があるためこのような形状になっている。我々もバリアフリー対応の必要性を非常に感じていたところであり、ぜひ一緒に取組んでいきたい。米子アリーナにより、鉄道だけではなくバスやタクシーも含めた公共交通も活性化すると思う。目久美町はポテンシャルの高いエリアだと思っているので、民間投資も含めて取組んでいきたい。(JR：和田副支社長)

➡米子駅南側の地価が非常に高騰したということで、この場所が非常にポテンシャルが高いことが表れている。地価が上がり、固定資産税が上がり、徐々に生産性の高い土地利用に変わっていく。ただ、どこかの時点で先を見越した積極的な規制誘導をやっていただきたい。ほこみちで整備をされる予定という説明があったが、人に歩いてもらう工夫をすることが大事だ。米子アリーナについては、PFIで受託されたSPCでも計画を持っていると思うので、そのことの整合性をとった形で整備をしていただきたい。(商工会議所：森田専務理事)

➡米子駅南側はポテンシャルが高く期待が大きい。土地利用の規制緩和もされており、ここに

新しい商業施設や色々なものが進出してくるとさらに賑わいに繋がっていくのではないかと考える。今はまだ具体的に賑わっているという状況ではないと思うが、がいなロードの開通から色々なハード整備の形が大分見えてきた印象を受けるので、成果も少しずつ出てくと思う。これまでは市民でも南側のエリアに来られた方は多くはないと思うので、まず南側に来て整備後の変化を見ていただく、普段から訪れていただくきっかけ作りの仕掛けも必要だ。米子アリーナについては県も一緒に整備を進めているところであるが、アリーナへのアクセスは非常に重要であり、徒歩や JR に加えて自動車やバスなどがある。自動車でのアクセスという部分に関しては、都市計画道路米子駅車尾線が事業化されて開通するとアクセスのメインルートになると思っており、米子市と役割分担について協議をしているところである。米子駅から米子アリーナまでの距離は意外に短いと思うが、歩くのはしんどい方もいると思うので今後はバスも必要になってくる。(県：荒田西部総合事務所長)

➡米子駅南側の規制緩和エリア内にある弊社敷地について、整備が終わり今年の9月下旬に事業者へ土地を引き渡したところである。事業者は大阪の不動産会社でホテルやマンションなどを手がけている会社と聞いている。土地利用の方向性は具体的に決まっておらずもう少し時間がかかる。(JR：和田副支社長)

- ・今年4月に米子駅南側の規制緩和を施行し、建ぺい率と容積率を見直したことで結果的に駅北側の商業地域とほぼ同様のビルの建築が可能になった。規制緩和エリア内の JR 敷地について土地の引き渡しが終わったということなので、今後様々な活用がされることを期待したい。公共交通については、現在、駅の南口には路線バスが発着しないが、将来的なネットワークのあり方ということで順次見直しをしている。みのりんバスという箕蚊屋地区のコミュニティバスを本日午後から試験運行し、来週からは本格的な実証運行をする。コミュニティバスの拡充も含めて駅南側へのアクセスをどうやっていくか、この点も1つの論点として考えていきたい。自動車交通については、米子アリーナの駐車場の増設なども検討している。自動車でのアクセスはもとより、公共交通や徒歩でのアクセスも含めてできるだけ皆様が支障なく米子アリーナを利用できるように、努力をしていきたい。(市：佐々木総合政策部長)

➡市民体育館に隣接する駐車場について補足であるが、この度の米子アリーナ整備に伴い91台から346台に増やし、東山公園全体としては687台から942台に駐車場が増える計画になっている。(市：赤井都市創造課長)

②米子駅北側エリア（米子市から報告：資料6）

- ・自動運転バスについては、全国に先駆けるような形で社会的な実装を進めたい。全国で13事業が国土交通省の重点支援事業として認定されている。これに加えてデジタル庁の総合支援として全部で10地区程度、重点推進地区を作るという報道がある。自動運転バスの車両は非常に高価で1台1億円程度かかるため、国の重点支援を受け続けるようなスキームを考えながら、企業型ふるさと納税による民間企業の応援も受けたい。バス事業者については運転手不足という大きな課題があるため、自動運転が課題の解消に繋がりバス事業者の持続可能性が高まることにも期待したい。自動運転バスはまずは米子駅と鳥大病院の間で実証運行を始める。現在の路線と同じルートになるかどうかは分からないが、循環バスや、路線バスの主要路線に順次自動運転バスを導入していきたいと考えている。駅前通りについては、昨年実証実験を実施し反省点もたくさんあったと考えている。現在でも駅前通りは十分かどうかは別として一定の歩行者空間を確保しており、当面はそれを最大限有効利用することも含めて社会実験を行いながら、

将来のあり方を議論して、将来の駅前通りを含めたこの地域の歩行者空間と道路交通の両立を模索していきたい。商工会議所では、よなごバルの取組をはじめとして様々な飲食を中心としたまちづくりの取組をしていただいている。みんなで一緒になって未来の米子駅周辺、駅前通りを作っていきたい。（市：伊澤副市長）

➡4年目の開催となる「よなごバル」について説明する。1年目のよなごバルは、米子駅前エリアと朝日町・角盤町エリアの2ヶ所で開催し、参加店舗数約34店舗、来店客数約600名というところから始まった。今回は皆生温泉エリアを増やし、参加店舗数91店舗（うち米子駅前エリアは25店舗）、来店客数約2,500人で、4倍の集客ができた結果となった。スタンプラリー抽選会や、歩行者天国にして屋外でのカフェテラスなどの取組を行った。今回からよなごバルのサイトを作って店舗の細かな情報を掲載することで、スマホから全てが見える運用を行った。また、ダイレクトメールやビラ配りは一切行わず、ほぼSNSを活用した形で若者をターゲットに呼び込みをかけている。その方法で来客数を増やすことができたので、来年度は飲食関係の組合などを中心にうまく活用して動いていただく方向性で進めていきたい。（商工会議所）

➡交通の移動手段として、バスは住民の利用だけでなく観光の視点で考えても非常に重要。なかなかバスの便数を増やすことができない最大の理由は運転手が不足していることなので、自動運転バスというのは非常に有効であり、一気にレベル4まで積極的に進めていただいているということに非常に感謝している。運転手不足対策というところでも有効な手段だと思うが、新しい乗り物という観点で見たときにも非常に関心を集め、にぎわい作りにも貢献する部分があるのではないかと期待している。駅前通りの実証実験では県としてもまちづくりの観点、道路管理、道路ネットワークの観点で積極的に関わっていきたい。今回は区間や期間を拡大して恒常的な形で実証実験を実施されるということなので、道路管理者に詳細について協議していただき、必要な対応をお願いをしたい。駅前通りは、鳥大病院やその先の空港や境港に繋がっていく非常に重要な道路だということを改めて感じる場所であり、自動運転バスも運行するということでさらに重要な道路になると思っている。駅前通りという公共空間を利活用して米子駅周辺の賑わい創出に繋げていくことが目指すところだと思っているので、新しい形で利用される利用者や周辺事業者の声を広く集めていただきたい。現在の形で利用されている歩行者や自転車、自動車の方にも当然影響があるので、日常利用の形から緊急時の利用の仕方など色々な方面からの視点で検討していただきたい。駅前通りの実証実験の実施にあたっては市民の皆様に広く周知していただき、何を目指すのかということを理解いただくということと、アンケートで多方面のご意見を集めていただきたい。将来イメージにも反映されてくると思うので、その協議の中にも一緒に加わり協力していきたい。（県：荒田西部総合事務所長）

➡駅前通りの実証実験について、どういう楽しみ方をしていただくか、どういうまち歩きを楽しむことができるかが明確に見えるような形の方がいいのではないかなと思った。また、自動運転バスについて非常に素晴らしい機会だと思う。ぜひ進めていただきたいし、企業版ふるさと納税については持ち帰って検討する。（JR：和田副支社長）

➡駅前通りの実証実験について、沿線の店舗への課題が挙げられていたが、一昨年に駅前通りの3車線化について商工会議所青年部から市に提言をさせていただいた経緯もあるので、青年部が中心になって協力させていただきたい。できれば実証実験の企画段階から青年部を加

わらせていただけると、民間の立場でのアイディアや連携といった面でお役に立てると思う。

(商工会議所：森田専務理事)

- ・駅前通りの実証実験について、昨年度は沿道事業者の皆様方も含めて事業の主旨をよく理解していただく作業が足りなかったのかもしれない。こういった反省点も踏まえて、今年度は真の声を拾えるように取組んでいきたい。また、道路利用者への影響については、特に自動車交通への影響が駅前通りだけではなく広域的にどう生じてくるのかエビデンスをしっかりとっておく必要があると考えている。まずは交通量調査の箇所を増やし、1日だけではなくて複数の日について検証したい。緊急時の対応については一定の幅員を確保して対応するやり方、単純に車線を減らすのではなく、空間を全て使えば4車線分の幅員が確保できるというような方式もあるようなので、配慮しながら進めたい。今年は事前に関係者の皆様に企画段階からご意見を賜る方式を取りたいと考えており、商工会議所青年部の皆様にもぜひお願いしたい。自動運転バスに関して安全に実施するのは当たり前の話として、高齢者の方、小学生、児童生徒の皆さんなど、様々な方に乗車体験をしていただき、自動運転バスは安全で素晴らしい乗り物なんだということを理解をしていただけるように実証運行の中で取組んでいきたい。また、レベル4の実装を早期実現をしたいと考えており、今年度のレベル2での運行を成功に終わらせた上で、来年度は国の支援を獲得しながら、レベル4に移行していきたい。ふるさと納税によるご協力も賜りながら、着実に歩みを進めていきたい。(市：佐々木総合政策部長)

(3) その他

- ・明日、明後日に「農と食のフェスタ」がコンベンションセンター、文化ホール、その周辺で開催される。米子駅周辺のにぎわい作りにも大きく貢献しているイベントで今回で10回目になる。特に今年はバスの運賃無料DAYを日曜日に実施していただけるので、相乗効果を高めてにぎわいを作っていきたい。(県：荒田西部総合事務所長)

【閉会】

- ・これまでの連携会議では整備を中心とした事業のすり合わせが中心になっていたが、これからは整備したインフラや整備しつつあるインフラを利活用して、まちの活性化、経済の向上に繋げることを協議し、実行できる段階になったことを本当に嬉しく思っている。現在、山陰地方の駅前で一番元気なのは、おそらく米子駅前ではないかと思う。米子駅周辺の将来像についても一緒に議論しながら、引き続きこの米子駅周辺を核としたまちづくりを皆さんと一緒に進めていきたい。もう1つ、鳥大病院の再整備という大きなプロジェクトがあり、病院の構想では30年かけて施設を再整備していくという壮大な構想である。鳥大病院の資源としての重要性をしっかりと生かしていきたい。そういった想いもあり自動運転バスを米子駅と鳥大病院の間から始めることとなった。隣接する湊山公園についても、児童文化センターなども含めて将来どのようにしていくかという議論がこれから始まっていく。本日の資料の中にも湊山公園周辺まちづくりワークショップの資料を入れているが、これも市民の皆さんと一緒にまちづくりの話をしていきたいという大きな結節点に今いると思っている。最後に、南北自由通路の整備というものを1つの起点として始まった米子駅周辺、そして米子駅周辺に繋がる中心市街地、それに繋がる郊外、これらをそれぞれ有機的に繋ぎながら一体的に将来に向かって持続可能性を高めていく、山陰の中心都市としてのしっかりとした役割を果たしていく、そのようなまちづくりを皆さんと一緒に進めていきたい

い。引き続き、お力をいただきたい。(市：伊澤副市長)

以上